第２章　新市の概要

1. 熊本市・植木町の概況

新市を構成する熊本市、植木町の概況は以下のとおりです。

熊本市・植木町の概況

出典：平成17年国勢調査報告書など

	熊本市	植木町
市章・町章		
面　積	286.81㎢	65.81㎢
	＜新市合計　352.62㎢＞	
人　口	677,565人	30,772人
	＜新市合計　708,337人＞	
世帯数	272,847世帯	9,736世帯
	＜新市合計　282,583世帯＞	
一世帯当人員	2.48人／世帯	3.16人／世帯
	＜新市　2.51人／世帯＞	
人口密度	2,362.4人／㎢	467.6人／㎢
	＜新市　2,008.8人／㎢＞	
市制・町制施行	明治22年	明治22年
市・町の花	肥後ツバキ	すいせん
市・町の木	イチョウ	楠
市・町の鳥	シジュウカラ	ほおじろ

（注）熊本市の数値は、旧富合町を含む。

2. 歴史

現在までつながる熊本市・植木町の歴史は、古く縄文時代まで遡ります。三の岳北東山麓には熊本市太郎迫遺跡・山海道遺跡や植木町笹尾遺跡など、当時の集落が確認されています。

天正16年（1588年）、肥後半国の領主として加藤清正が、今の熊本市古城町にある「隈本城」へ入城したのち、現在の中心市街地にあたる城下町の経営に着手しました。また現在の植木町のある地域も、同時期の中世から近世にかけて加藤清正により治められていました。

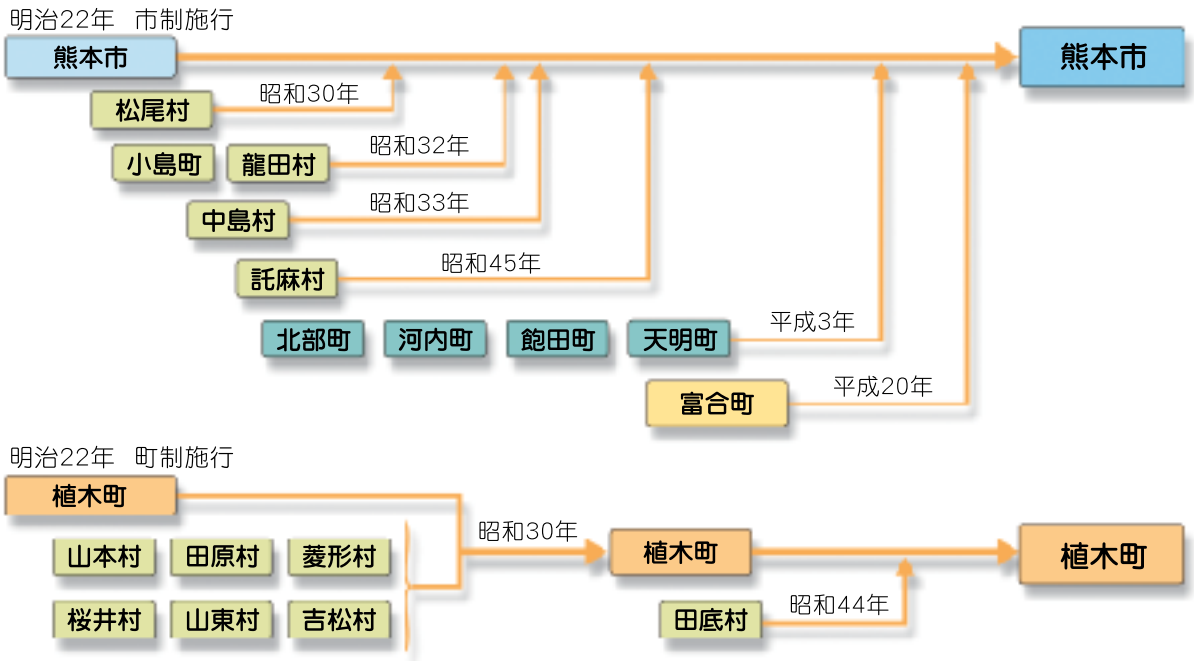
慶長5年（1600年）、関ヶ原の戦い後、徳川家康の天下になると、加藤清正が肥後54万石の領主となり、慶長6年（1601年）からは、茶臼山に城を築き、慶長12年（1607年）に「隈本城」から「熊本城」に改めました。その後、清正の子忠広が寛永9年（1632年）改易され、細川忠利が肥後領主となり、以後、明治までの200有余年もの間、細川家により治められてきました。

近代に入ると、明治10年の西南の役では植木町西部に位置する田原坂が最大の戦いの場（田原坂の戦い）になり、現在の熊本市街地の大部分も戦火に遭いましたが、直ちに復興し、明治22年（1889年）4月1日施行の市制・町村制により熊本市と植木町が誕生しました。熊本市は市制施行当時、面積5.55km^2、人口4万2千余人を数えるに過ぎませんでしたが、現在では、面積286.81km^2、人口約68万人にまで発展し、名実ともに九州中央に位置する中核市として発展を続けています。また、植木町は、昭和30年に植木町、山本村、田原村、菱形村、桜井村、山東村、吉松村の１町６村が合併促進法に基づき合併、昭和44年に田底村が合併し現在の植木町となりました。

このように、熊本市と植木町は、歴史的にみると、同じ領主の領地として、ひとつの行政域であった期間もあり、以前から強い結びつきがあったことがうかがえます。

両市町の沿革（昭和以降）

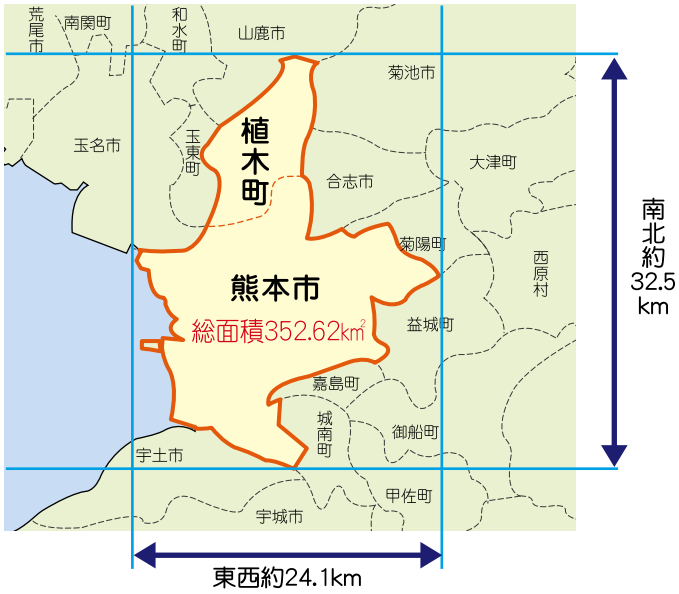
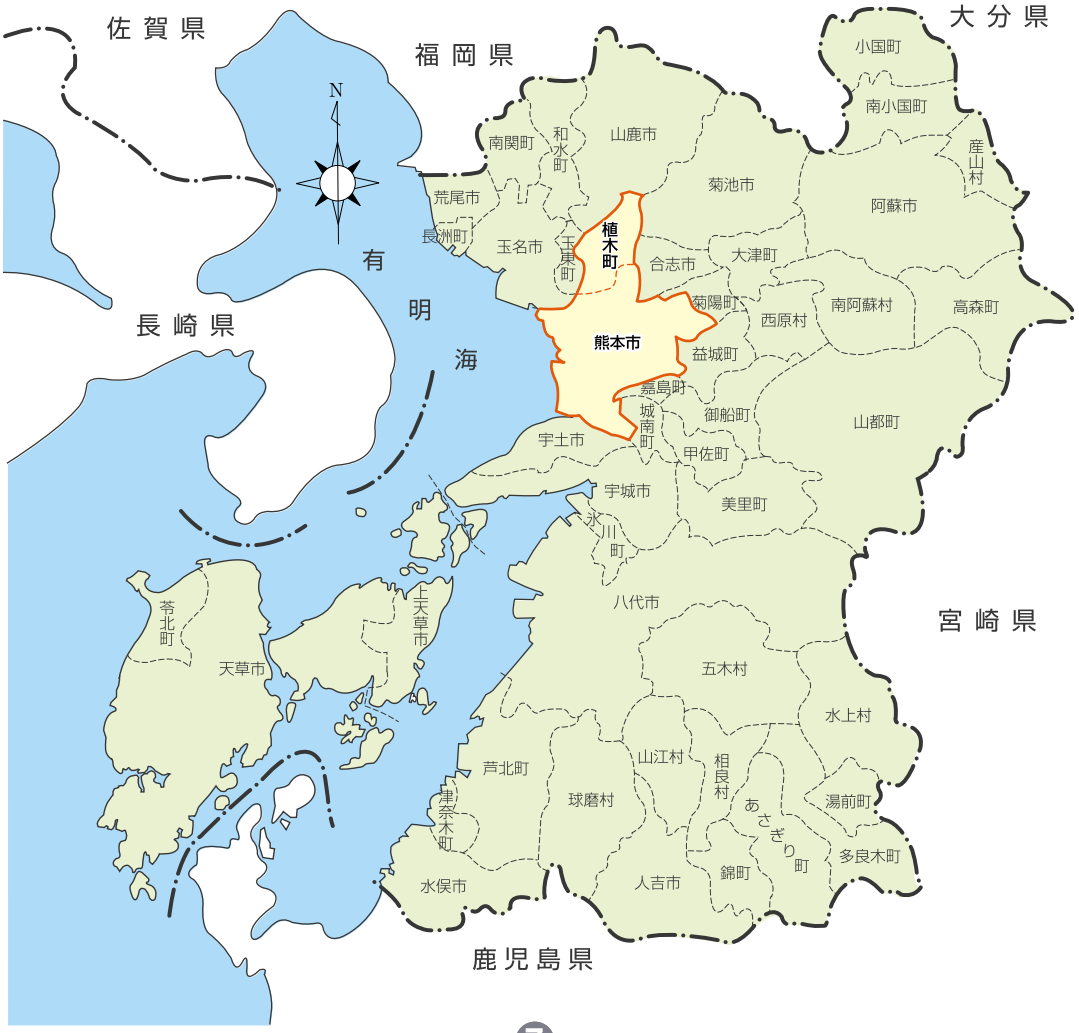
参考：平成20年熊本県市町村要覧



3. 位置・地勢

新市は熊本県中央部に位置し、有明海に注ぐ菊池川、坪井川、白川、緑川の4水系の下流部に形成された、いわゆる穀倉　熊本平野の大部分を占めています。

東には遠く阿蘇山地、西には有明海に面した海岸線が広がり、南は木原山を頂きとする山系、北は植木台地に囲まれた平野部が広がっており、豊かな自然に四方を囲まれた地形となっています。



新市の位置